

特別授業

芸術資源研究センター特別招聘研究員

塩見 允枝子

フルクサスとは？

1960年代以降、音楽、美術、演劇など、さまざまなジャンルとメディアを横断する芸術実験を国際的規模で繰り広げた前衛芸術運動。ジョージ・マチューナス、ヨーゼフ・ボイス、ナム・ジュン・パイクらに加え、日本からも塩見允枝子や小杉武久、ハイ・レッド・セーターなどが参加した。

フルクサス パフォーマンス ワークショップ 実演を通してフルクサスを体験しよう

講師プロフィール

塩見 允枝子

音楽家。1938年、岡山市に生まれる。1961年、東京芸術大学音楽学部楽理科を卒業。大学在学中より小杉武久らと「グループ・音楽」を結成、即興演奏やテープ音楽の制作を行う。1963年、ナム・ジュン・パイクを通じてフルクサスを紹介され、翌年ニューヨークに渡る。1965年、メールによるイベントシリーズ「スペイシャル・ポエム」を開始。同年帰国。1969年、音楽や映像、美術、舞踊など多様なジャンルの融合の実験として開催されたクロストーク・インターメディアに参加。1970年より活動の拠点を大阪に移し、言葉と音を軸にした室内楽や劇場的な作品を発表。90年代から電子テクノロジーへの関心を持ち、詩的な発想と独自の的方法論で、音と視覚的要素を結合したパフォーマンスを編み出す。1995年パリ、1998年ケルンにて個展。その後も国内外で数々のフルクサス展に参加し、マルチブルの作品や出版物を出品、また各地で演奏会やワークショップを行う。本学との関係では、2005年11月大学会館にて大規模なワークショップ開催、2014年から芸術資源研究センター特別招聘研究員。



塩見允枝子 幽閉された奏鳴曲 Photography by Hideto Maezawa, 「Fluxus in Japan 2014」(東京都現代美術館)

6月16日(火)

15:30 - 17:30

会場：京都市立芸術大学 大学会館ホール

主催：芸術資源研究センター

参加無料(事前申込み不要)

演奏曲目

- フィリップ・コーナー ▶ ベタリ・ピアノッシモ
- ジョージ・マチューナス ▶ アドリアノ・オリヴェッティへの追悼
- エリック・アンダーセン ▶ Op.17
- ラ・モンテ・ヤング ▶ コンポジション1960 #10
- ジョージ・ブレクト ▶ 二つの持続
- エメット・ウィリアムズ ▶ 5人の演奏者のための10のアレンジメント
- 塩見允枝子 ▶ 幽閉された奏鳴曲
- ディック・ヒギンズ ▶ ゴング・ソング

(同時演奏あり)

当日は、参加者の皆さまの中からパフォーマーを募って行ないますので、どうぞ奮ってご出演下さい。なお、音の出る小物体や簡易楽器をお持ちの方は、ご持参ください。



問い合わせ先 芸術資源研究センター事務局
Tel / 075-334-2231 Fax / 075-333-8533
Mail / arc@kcuu.ac.jp

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts